



約300名が参加したシンポジウム

## 障がい者と地域との防災シンポジウム

# 助け合いをキーワードにした 障がい者と地域との 防災対策づくりを考える

12月8日(土)に一関文化センターで障がい者と地域との防災シンポジウムを開催し、303名が参加しました。

先の東日本大震災津波では、障がいをもつ多くの方々が犠牲になりました。この状況を踏まえ、現在、災害時における高齢者や障がいをもつ方々等の避難誘導や支援のあり方などについて、国、県、市町村、関係機関団体や地域の防災関係者が見直しを行っていきまが、地域を巻き込んだ新たな支援体制の構築も課題となつています。

今回のシンポジウムは、障がいをもつ方々に対する防災対策に先進的に取り組んでいる事例を学び、障がい当事者の声をきいて、今後の防災対策づくりを考えることを目的に開催したものです。

初めに、社会福祉法人浦河べてるの家の向谷地生良理事から「助け合いをキーワードとした障がい者と地域との防災対策づくりについて」と題して講演をいただきました。この講演では向谷地理事のほか、べてるの家のメンバースタッフ、メンバーが同時に登壇し、実例をご本人の話として聞くことができました。

その中で、災害等非常時に大切なのは「当事者自らが、自分自身がどのような支援、対応が必要かを予めしっかりと発信していくことが重要」とであるとの話がありました。

続いて行ったシンポジウムでは、奥州市身体障がい者相談員の高橋善次氏、いわて障がい福祉復興支援センター胆江圏域サポーターの家子洋子氏から「自助」の大切さや障がい者と健常者それぞれ「お互いさま」という「共助」の大切さを話されました。

浦河べてるの家のスタッフの向谷悦子氏と池松麻穂氏からは、べてるの家の活動の核を成す「当事者研究」の概念と共に、当事者・災害「研究」を基に、より具体的に「練習」することで災害に対応できることをお話いただきました。

事前に学んだことを実際の訓練で体感することによって、どのような状態の方でも確実に身につくこと、経験を踏まえた次の研究と練習がより高いステップに向かっていること、さらに地域組織・社会と共同で行うことが現実の防災として高く機能することとした。

## ソウェルクラブ (福利厚生センター)

### ご加入のおすすめ

**新規会員  
募集中!**

会員数 217,000人

**職員の健康管理のために**

- 生活習慣病予防健診費用助成
- 健康生活用品給付
- スポーツクラブ
- 電話健康相談

**職員の余暇活用のために**

- 指定保養所…休暇村 他 全国114か所
- 会員制リゾート施設…ラフォーレ倶楽部 他 全国238か所
- クラブサークル活動助成
- テーマパーク
- 国内・海外旅行
- レンタカー
- カルチャースクール・ゴルフ・乗馬等

**職員の生活サポートのために**

- 住宅ローン ●特別資金ローン
- ソウェル団体生命保険・傷害保険
- 小売店、引越サービス、文具・消耗品、書籍等

**職員の慶事のお祝い**

- 結婚お祝品贈呈
- 出産お祝品贈呈
- 入学お祝品贈呈
- 資格取得記念品贈呈
- 永年勤続記念品贈呈

**各種情報提供**

- 会員情報誌 ●ホームページ

**地域に密着した事業**

- 会員交流事業(旅行・観劇・スポーツ大会等)

**職員の資質向上のために**

- 広報講習会
- レクリエーター養成講習会
- 接遇講習会
- パソコン講習会
- メンタルヘルス講習会
- 海外研修

**職員の万一の際に**

- 会員の死亡弔慰金
- 会員の配偶者の死亡弔慰金
- 会員の入院・手術見舞金
- 災害見舞金

**しくみ**

社会福祉事業経営者が当センターと契約することにより、その事業所に勤務する方々が会員として登録され、自由に福利厚生サービスを利用することができます。

**掛金**

掛金は職員一人当たり毎年度1万円です。

**問い合わせ先**

福利厚生センター岩手県事務局  
岩手県社会福祉協議会 総務部内  
TEL 019-637-9615

**福祉の職場で働く人の福利厚生を支援しています**